三条市租税教育推進協議会長賞

税金に救われて

三条市立第一中学校　三年　菊地（きくち）　七瑞（ななみ）

去年の夏、私の母が突然胸が苦しいといって倒れ、救急搬送されるという出来事があった。私の母はもともと身体が弱く、これ以前にもよく救急車で病院に搬送されたことがあった。しかし今回は以前とは違い、救急車だけでなく、ドクターヘリでも搬送されることになった。近くの病院では受け入れが難しく市外の大きな病院に搬送されることになったからだ。その時母は心臓の血管が裂けてしまっていたため、ドクターヘリでなかったら助かっていなかったかもしれないと聞いた時は恐怖と同時に安堵したのを覚えている。

日本では救急車の費用は税金から賄われている。また日本にいる人ならば国籍も関係なく利用することができる。これはドクターヘリも同じである。いままで税金といってもあまり自分に関係があまりないように思っていたが、税金はとても身近なところにあり、私たちの生活を支えてくれているものだとこの出来事をきっかけに気づいた。

体調が悪くなったり、ケガをしたら救急車をすぐに呼べたり、病院に行けること。また病院を受診した際にかかる費用の一部であったり、より身近なことでは義務教育での教材費も税金によって支えられているものだ。今の生活を送ることができているのも税金に支えられてこそのものだと気づき、私のなかで税金に対してそのネガティブな考えは無くなった。

母といま過ごし、言葉を交わすことができているのも、税金を納めてくださっている方々がいたからこそなので、本当に感謝をしている。だからこそ、この環境をあたりまえと思わずにしっかりと学業に励み、自身に出来ることで社会に貢献できるようになりたい。そのためにも今から少しずつでも税と向き合い、税についてより知っていきたいと思う。時代背景によって形が変わってきた税がこれからも移り行く社会に合ったバランスと形でより良い生活へとつなげることのできるものとなるように、社会の一員として考えることができるようになっていきたい。